

NO.	項目			指摘事項	土木学会	地盤WG	建築WG	対応
	WG	大項目	小項目					
1	-	共通	Ⅱ-3、Ⅲ-3	・浦安市の復興に関する基本方針の提示を ・地震動、各施設の事前、事後対策、被害の受認限度				・対策方針案の提示(資料3-4-2)
2			-	・余震の影響を把握すべき				-
3	地盤WG	地盤特性の把握 液状化要因分析	I-1	・地下水位が浅い地域と被害との関係を把握すること		●		・地下水位と被災状況の比較(資料3-3-1)
4			I-4	・被害想定 of 想定地震に、相模トラフの1923年の関東地震相当を加えるべき		●		・港空研波形提供(資料3-3-1)
5			I-1	・中町地区、新町地区のFs層の厚さを把握してほしい		●		・Fs層厚の把握(資料3-3-1)
6			I-4	・入力波形の解析コードはONDAからFDELに変更し、路頭換算入力(2E)とする	●			・波形記録点数の関係でDYNEQ(FDEL相当)を使用(資料3-3-1)
7			I-4	・Vs~N値の回帰式はばらつきが大きいので、Vsのばらつきを考慮して強震記録との整合性を図り地震動の評価を行うこと	●	●		・参考資料として提示(資料3-3-1)
8			土木施設WG	公共土木施設の被害・液状化対策	Ⅱ-1道路	・P2-4-2-10の写真3の路面変状とP2-4-2-13の隆起を統一すること	●	
9	Ⅱ-1道路	・P2-4-2-9写真9、もっと整理を			●			・写真の修正追加(資料3-4-2)
10	Ⅱ-1道路	・本当に通れなかった箇所の分析を ・銚さい使用事実の有無			●			・被災が顕著だった仮復旧箇所を明示(資料3-4-2) ・銚さいの使用事実はあったが、使用箇所、時期が煩雑で特定が困難
11	Ⅱ-1道路	・幹線道路、生活道路の被害の相違点について評価が必要			●			・幹線道路と生活道路の被害パターンの考察(資料3-4-2)
12	Ⅱ-1道路	・空洞調査、習志野市は正確な調査を実施 ・アスコンは冬場は剛性が高く、夏場は弱くなり、空洞部が陥没する			●			・詳細調査は実施予定 ・事後対応マニュアル化時に検討
13	Ⅱ-1橋梁・道路	・橋梁の取付部の段差の有無の分析が必要 ・踏み掛け版、等の構造の整理を			●			・段差は軽微であった ・3橋の例示(資料3-4-2)
14	Ⅱ-1汚水	・下水道管の鉛直変形と水平変形のメカニズムの分離を			●			・災害査定時の基準としては、たるみのほか破損、クラック、変形、ズレ、進入水等がありますが、蛇行については査定の基準がないため、調査を行っておりません。
15	Ⅱ-1汚水	・中町と新町と被害性状が違うのは何故か？ ・第二期工事でなにか工夫をしたのか？分かれればよいが・・・			●			・新町の雨水は被害が軽微であったため、災害査定申請をしていないことから数字がゼロとなっている。 ・中町地域は戸建地区が多いため宅内からの接続箇所が多い、これに対し新町地域は集合住宅が多く、接続箇所が相対的に少ないため、取付管や宅地内の損傷箇所からの土砂流入の差が被害の差となって現れたと考えられる。
16	Ⅱ-1雨水	・雨水と汚水の管路、マンホールの被害の相違の分析が必要			●			・雨水は緊急性の高い損傷は認められなかったこと、また、大きな機能障害がなかったことから、災害査定には上がらないものが多かった。(今後は維持管理の中で、施設の状態を注視するとともに、必要に応じ調査を実施する。)
17	Ⅱ-1雨水	・雨水はマンホールのズレなし、下水のマンホールとの相違は？			●			・汚水人孔は全てが組立式で築造されているが、雨水人孔は、底版及び側壁の一部が現場打ちで一体となっているものが多く、構造が汚水人孔に比べ強固であるため被害が軽減されたと考えられる。 ・汚水管の管基礎が砂基礎であるのに対し、雨水管の管基礎はコンクリート基礎である箇所が多く、基礎コンクリートが継ぎ手への負担を軽減したものと考えられる。
18	建築物WG	建築物の被害・液状化対策	Ⅲ-1	・道路の向かいには被害なし。その理由を検討できないか。			●	・被災した戸建住宅の傾斜と液状化による地盤沈下の状況について整理。宅地の沈下量が大きいほど住宅の傾斜が大きい。同一街区でも被害に差がある。街区道路は沈下していないことなどを整理。
19			Ⅲ-4	・尼崎市で適用した「地下水位低下工法」を検討しては、どうか？			●	・既存小規模建築物(民間宅地)の液状化防止・軽減対策(資料3-3-3)
20			Ⅲ-1	・建替えを実施した家屋の地盤改良、基礎形式を把握してほしい			●	・柱状改良などを実施した家屋の基礎の概要と傾斜等の被害状況について取りまとめ作業を実施中。